

令和7年度 玉島地区の茶会

開催日	茶 会	主 催	場 所
4月 13日(日)	良寛茶会	(一財)聖良寛奉賛会	円通寺・良寛荘
5月 5日(月)	端午の節句	玉島市民交流センター	玉島市民交流センター
6月 8日(日)	月釜(星島 宗昌)	裏千家玉交会	玉島市民交流センター
7月	6日(日)	七夕茶会	玉島市民交流センター
	13日(日)	月釜(畑野社中)	玉島市民交流センター
9月 14日(日)	月釜(表千家流同友会)	表千家流同友会	玉島市民交流センター
10月 12日(日)	月釜(森本 宗富)	裏千家流玉交会	玉島市民交流センター
11月 9日(日)	玉島物産展	玉島湊まちづくり推進協議会	玉島市民交流センター
12月 21日(日)	月釜(猪木社中)	裏千家玉交会	玉島市民交流センター
1月 11日(日)	月釜(加古社中)	表千家流同友会	玉島市民交流センター
2月 22日(日)	月釜(猪木 宗桂)	裏千家玉交会	玉島市民交流センター
3月	1日(日)	ひいな茶会	玉島湊まちづくり推進協議会
	8日(日)	月釜(藤沢社中)	表千家流同友会

お問い合わせ

企画・制作 玉島湊まちづくり推進協議会
地域おこし協力隊 家城七虹(いえきななこ)

デザイン LAID-BACK DESIGN, tosaoka, 山口百香

協 力 玉島表千家流同友会・裏千家玉交会・蔽内流竹風会、玉島高校茶道部

お問い合わせ 倉敷市玉島阿賀崎1-2-31 玉島テレビ放送内(担当:猪木)
電話:086-526-7075



YouTubeアカウント
玉島湊まちづくり推進協議会



Instagram
レトロな街 玉島

茶の湯と歴史のまち

玉島

TAMASHIMA



和菓子



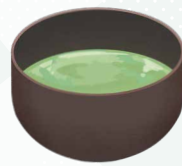
羽黒神社



玉島だるま



白桃



お抹茶



良寛



北前船



乙島まつり



燦然



円通寺



葡萄

はじめての

お茶会ガイドブック

2025/令和7年度版

玉島で「お茶会」に参加してみたいと思っているそのあなた。作法や雰囲気がわからなくて、参加を迷われているいませんか？

ご安心ください。お茶会の主催者や同席する方々は、未経験の方にも優しく対応してくださいます。ただ、参加する前に簡単な流れは知っておきたいですね。

このパンフレットでは、お茶会での簡単な作法や玉島のお茶文化を紹介します。

ぜひお茶会に参加して、玉島のあふれる魅力を感じてみてください。

このパンフレットがあなたのお茶会参加への第一歩になることを願っています。



お茶会の流れを紹介！

岡山県立玉島高校茶道部のみなさんがお手前を頂戴する流れ、作法を披露しています。左記の二次元バーコードを読み取ると動画を再生できます。

お茶会参加に必要なものは？

- 扇子
- 菓子切り
- 懐紙
- 白い靴下

春
Spring

うぐいす餅、唐衣、
草餅、桜餅など

季節を彩る 和菓子の紹介

24
節気



桜の練り切り



薯蕷饅頭

冬
Winter

花びら餅、椿餅、
薯蕷饅頭など

季節に合わせた和菓子というのは、より一層その季節の移ろいを感じさせます。視覚や味覚から、季節を味わってみてください。

葛菓子、水無月、
若鮎、錦玉羹など



錦玉羹



紅葉の練り切り

夏
Summer

月見団子、栗きんとん、
亥の子餅など

秋
Autumn



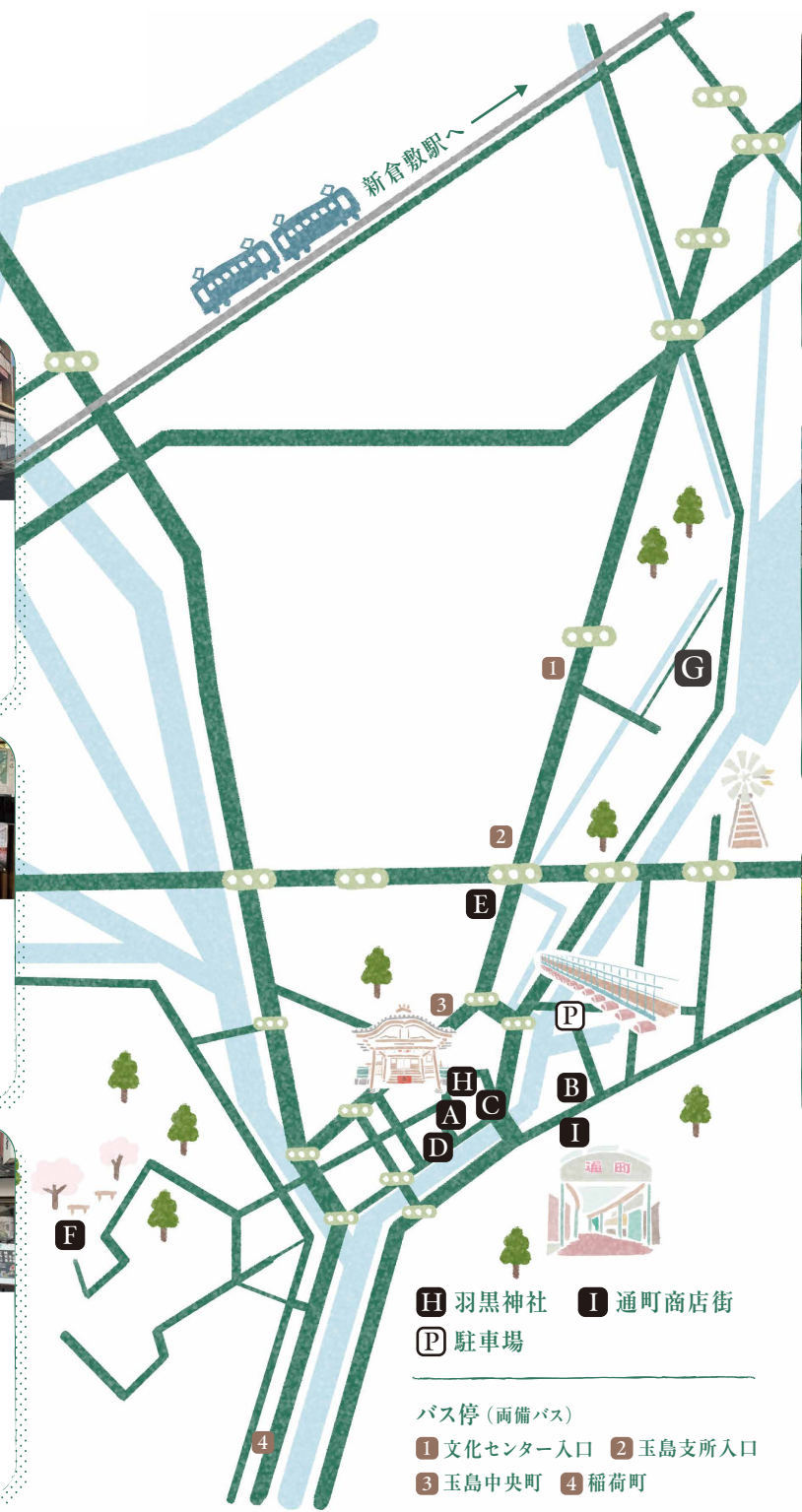
A 松涛園
倉敷市玉島中央町1-12-18
電話番号 086-526-7655
営業時間 8:30~17:30
定休日 なし



B 玉井堂本舗
倉敷市玉島2-6-14
電話番号 086-522-2251
営業時間 9:00~18:00
定休日 なし



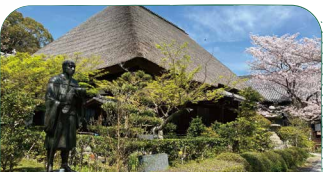
C 樋口芳泉園茶舗
倉敷市玉島中央町1-12-2
電話番号 086-522-2907
営業時間 9:00~17:00
定休日 水曜



D 器楽堂老舗
倉敷市玉島中央町1-17-5
電話番号 086-522-2309
営業時間 9:00頃~19:00頃
定休日 なし



E 浅野大黒堂茶舗
岡山県倉敷市玉島中央町2丁目1-7
電話番号 086-522-2582
営業時間 9:00~18:00
定休日 なし



F 円通寺
岡山県倉敷市玉島柏島451
※専用駐車場あり



G 玉島市民交流センター
岡山県倉敷市玉島阿賀崎1-10-1
※専用駐車場あり

H 羽黒神社 **I 通町商店街**
P 駐車場

バス停 (両備バス)

1 文化センター入口 **2** 玉島支所入口
3 玉島中央町 **4** 稲荷町

COLUMN

江戸時代から続く玉島の「お茶文化」

江戸時代から「茶の湯」として現在も残る玉島のお茶文化。なぜ玉島にお茶文化が広まったのでしょうか。江戸時代中期、備中松山藩によって、高梁川と瀬戸内海を結ぶ港として開かれた玉島港は、北前船の寄港地としても栄え、そこに集まる商人たちをもてなすための茶室が作られるようになりました。当時の茶室の数は四百にのぼり、現在でも表千家、裏千家、数内流などの流派が玉島のお茶文化の伝統を受け継いでいます。玉島に和菓子屋が

多く残っているのもその時代の名残であり、今も地域の人々に親しまれています。

しかし、かつては四百もあった茶室は徐々に失われつつあり、茶の湯を伝えていく人も減少傾向にあります。このパンフレットを手にとってくださったあなたにぜひ「玉島のお茶文化」に触れていただき、玉島をより深く知ってもらいたいです。ぜひ魅力いっぱいの玉島に出掛けてみてください。